



「農業DXの最前線」

～先輩から学ぶ、これからの農業と将来キャリア～



7月29日（水）開催いたしました！

対面およびオンライン（ZOOM）のハイブリッド方式にて開催いたしました「新潟大学農学部F C公開シンポジウム」は今回、名称を一部変更し第13回目となりました。農学部2年生を中心に外部からの参加者も含め約200名の参加がありました。

今年度は「農業DX」をテーマに、関連する実務の第一線で活躍されている新潟大学農学部卒業生の方々を発表者としてお迎えしました。先輩方の現在の活動内容から今後の新しい農業の姿を展望するとともに、現在農学部で学ぶ皆さんが、日々の学びを今後どのように深め、将来のキャリアをどう描いていくのかを考える絶好の機会としていただきました。

講演1：「AIとグローバル視点で変わる新潟農業
—田んぼで考えるこれからの仕事と役割—」
BASFジャパン株式会社アグロソリューション事業部
営業部 生産者基盤育成スペシャリスト 坂田 益朗 氏

講演2：『食に救われて再び農業界へ』
—人材紹介業を経て選んだ農業DXの道—
アグリノート株式会社
アグリノートソリューション部 青井 貴史 氏

講演3：「農業の新時代へ —現場で感じた変化と可能性—」
株式会社 新潟クボタ
みどりの食料システム戦略貢献部 野村 紗恵子 氏

パネルディスカッション・質疑応答

講演① B A S F ジャパン株式会社 坂田 益朗氏



講演② アグリノート株式会社 青井 貴史氏



講演③ 株式会社 新潟クボタ 野村 紗恵子氏





講演① 坂田 益朗氏



講演② 青井 貴史氏



講演③ 野村 紗恵子氏



パネルディスカッション

【アンケートより感想 一部抜粋】

講演① (坂田 益朗氏)

農業イコール田舎というイメージが強くあったが、世界に繋がっているという感覚を得られた。

日本の企業だけでなく、他国の企業が新潟の農業に注目していることに、新潟大学農学部に進学したからには、この機会を逃してはいけないなと思いました。

もう少し本題のお話を聞きたかったです。
グローバル視点⇔新潟の農業⇔他県・他国への展開などお聞きしたかった。

講演② (青井 貴史氏)

アグリノートについての説明を通して、AIやデジタル技術などの新たな技術がどのように農業に貢献しているのか学ぶことができた。

農学部に進学したものの、まだ自分が学びたいと考えている分野を思うように学べておらず、どうしたものか、と考えていました。そういった思いを青井さんも当時感じられていて、その思いからその分野を学んでみる、いろんな人と関わるといったことを通して、新たなビジョンを成型していったというお話が大変興味深かったです。

講演③ (野村 紗恵子氏)

無人トラクタやドローンなどのアグリロボ、高精度なRTK基地局の整備により、大規模法人だけでなく個人農家にもスマート農業が身近になっている現状を知った。費用面などその背景や具体的な定量効果をお聞きしたかったです。

農業の自動化は高齢化している業界にとって役立つものであり、若者の農業へのハードルも下がるのがとても良いと感じた。

少子高齢化や農業従事者が減少している現在、利用が拡大してほしいと感じた。

パネルディスカッション/全体の感想

技術の導入にはメリットだけでなく、コストや運用方法、人材育成といった課題もあることが分かり、農業の発展にはさまざまな立場の人が協力することが重要だと感じた。

自分が興味を持っていることについて「農業」のような「名詞」ではなく、「自分が農業をすること」や「農業をしている人を支援すること」などのように「動詞」で考えると、具体的に進路決定しやすくなるという話が特に印象に残りました。

たくさんのご参加有難うございました。